「こどもの居場所」づくり事業について

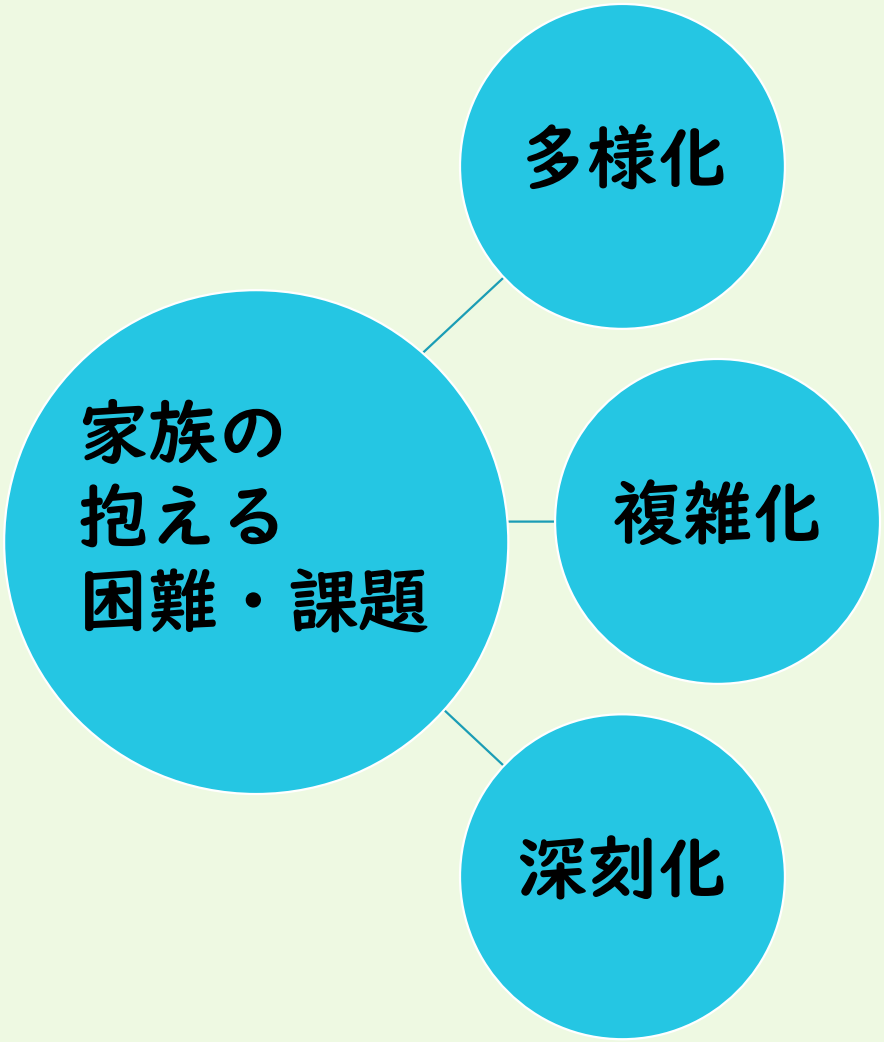
「こどもが自分らしく輝けるための居場所づくり」
～こどもが安全で安心して過ごせる身近な居場所を増やそう～

R6.8.21　こども希望部

目 次

１　取り組みの背景
２　取り組みの目的(ねらい)
３　R5の取り組み
４　R6の取り組み
５　今後の取り組み
６　R7の取り組み(検討段階)
７　こどもの居場所充実・確保方針

Ⅰ　取り組みの背景①



コロナ禍の影響による
社会情勢の変化

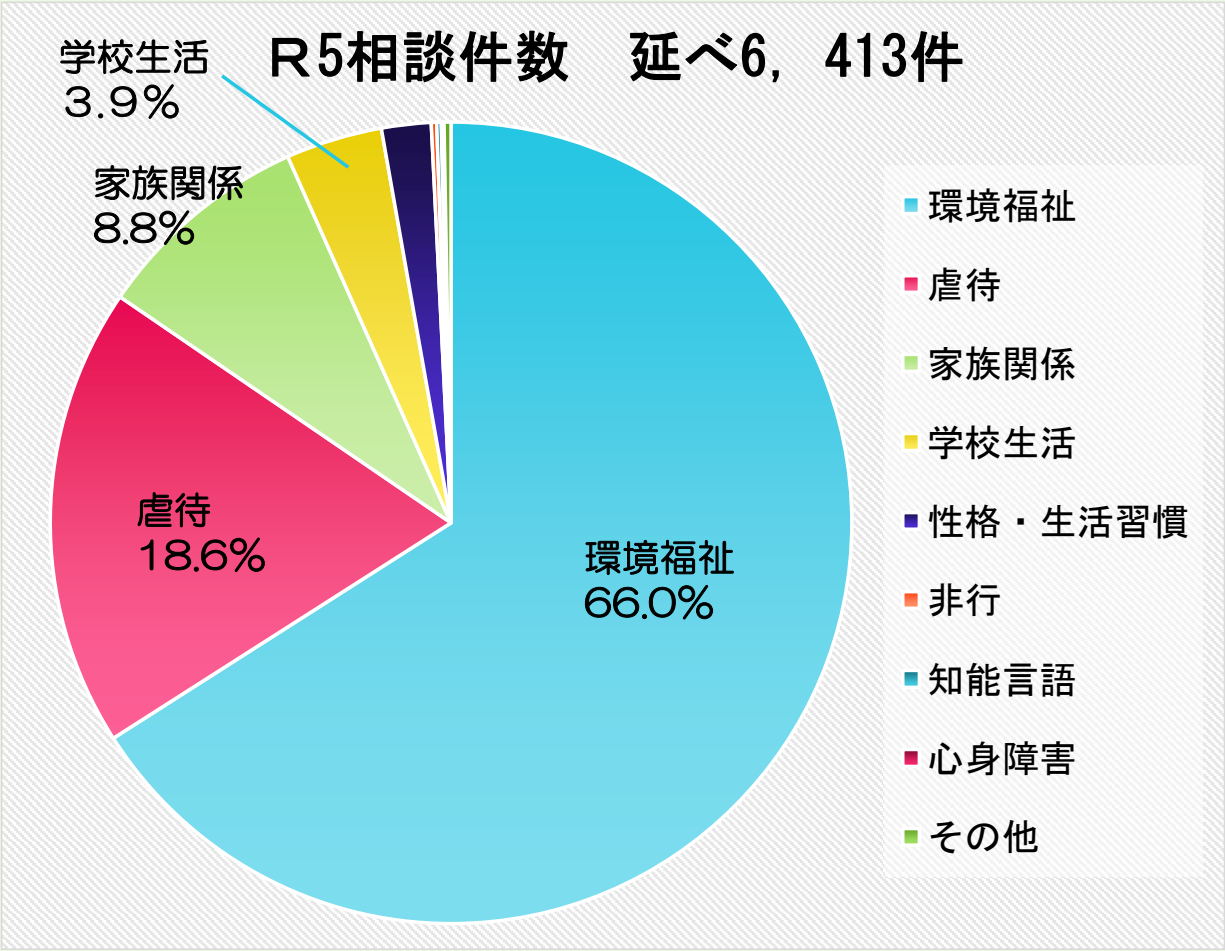
地域のつながりの希薄化

家族構成の変化(核家族化)

家庭内で子育て先輩が不在

２　取り組みの背景②

【こども家庭総合支援室の相談実績】



　子どもを取り巻く環境や経済問題等、「環境福祉」の相談が最も多い。
　次いで、「虐待」「家族関係」の順に多くなっている。

２ 取り組みの目的(ねらい)①

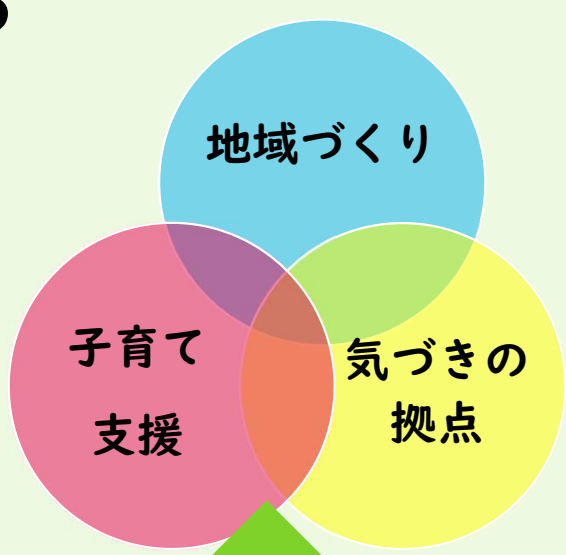
身近な地域に「こどもの居場所」ができる

①多世代交流や地域コミュニティ形成につながる

②子どもの育ちを促し、地域で見守るしくみづくり

③多様な課題へのきめ細やかなセーフティネット

実現したい将来像



地域、関係機関と連携した居場所づくりの立ち上げ支援＆推進
＋
個別支援のきっかけ

２ 取り組みの目的(ねらい)②

地域、関係機関と連携した居場所づくりの立ち上げ支援＆推進

＋

個別支援のきっかけ

こども家庭センターへつなぐ

(実現したい将来像)

「気づきの拠点」として

「居場所」<u>に</u>つなぐ

↓

「居場所」<u>から</u>つなぐ

カケショク

３ Ｒ５の取り組み①

実施内容

★地域や団体、関係機関等と連携し、カケショクを活用した子どもが安心できる場所「こどもの居場所」「気づきの拠点」づくりを試行的に実施した。

対象者

★市内在住の子どもとその家族

乳幼児から小学生１６人、保護者１３人、計２９人参加

カケショク

３ Ｒ５の取り組み②

実施日	「あそび場ＩＮカケショク」 令和６年２月１６日(金)１５時～１６時３０分
スタッフ	ボランティア１０団体　２６人

カケショク

３ Ｒ５の取り組み③

(実現したい将来像)

子どもが安心できる場 × 人や社会と関わる力を育てる × 多世代交流の場 × 身近なカケショク

カケショク

３ Ｒ５の取り組み④

段階的にすすめていきます

評価

試行実施

実態把握

令和６年度
の取組へ

③課題抽出・評価

②令和５年度中に試行実施

①子どもの居場所活動団体のヒアリング

カケショク

４　Ｒ６の取り組み①

１　こどもの居場所団体交流会（年2回）

第１回　６月２１日　市内こども食堂交流会　６団体参加

第２回　10月頃予定

第３回　１月頃予定

社会福祉協議会CSWと協働ですすめる

２　活動の周知啓発

市ホームページ、ＬＩＮＥを活用し、こども食堂の活動を周知予定

こどもに居場所の情報を届ける

※LINEはすでに対応済

３　平日のカケショク開放に向けてしくみづくりに取り組む

【Ｒ６試行実施】→　課題抽出　→　Ｒ７本稼働

R5「あそび場INカケショク」協力団体と協働ですすめる

→

将来的には地域へ

４ Ｒ６の取り組み②

４　こどもへ居場所について意見聴取

①　５月１８日けっトラ市にてアンケート調査
こども37人　保護者82人　計119人
居場所にあったらいいもの（こどもの意見）

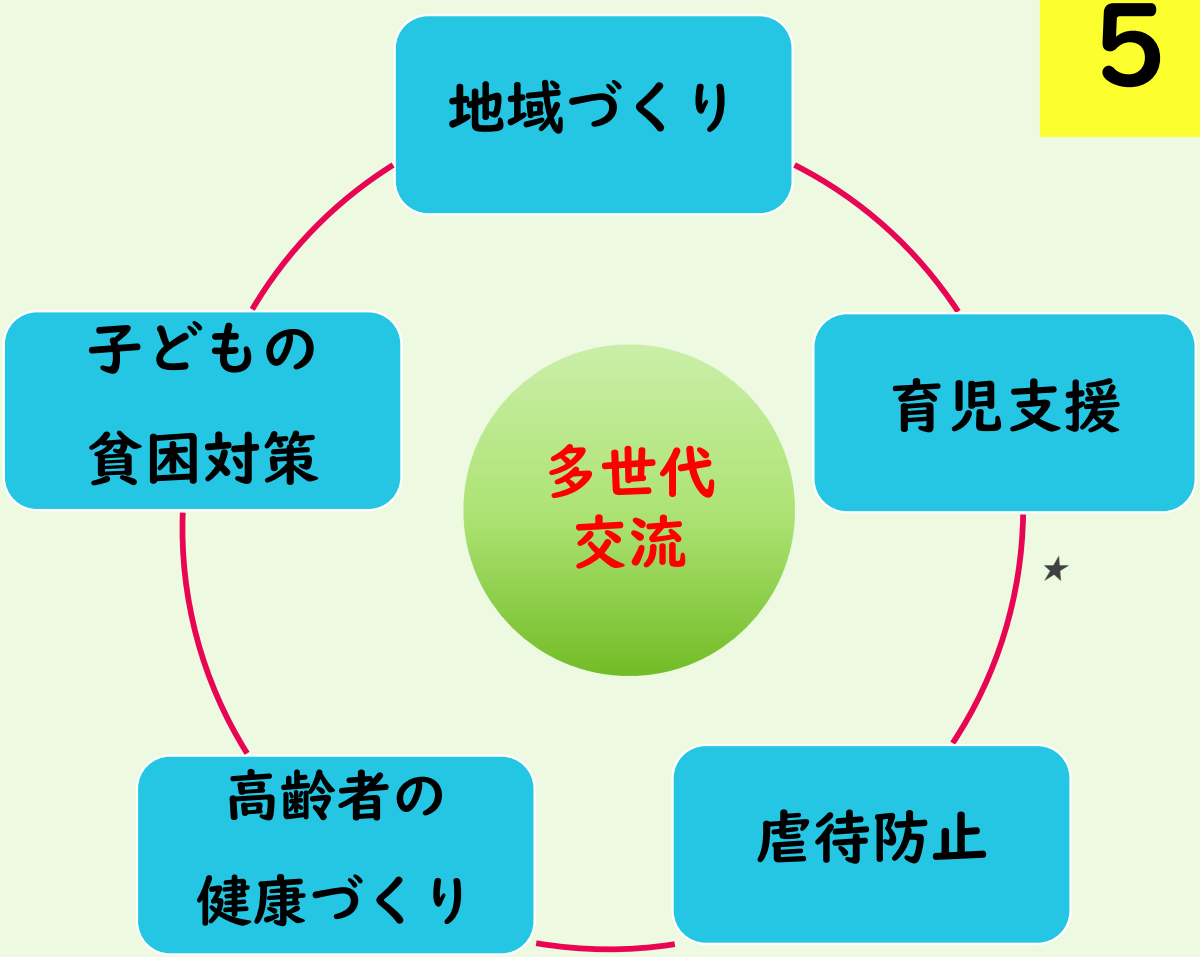
- Wi-Fi環境
- ゲーム機
- テレビ（DVD）
- 卓球台など体をつかう遊具
- 駄菓子屋

②　こども計画基本理念投票時にアンケート調査
小学校4年生から中学生に9月下旬に実施

こども施策の策定・実施・評価するに当たり
こどもや子育て当事者等の意見聴取・その反映が
義務規定になりました

こどもや子育て当事者の
意見を居場所に反映

5 今後の取り組み



「カケショク」から身近な地域へ展開!!
居場所の空白地区を解消!!

★行政連携
- 「気づきの拠点」
「子どもの居場所」からつなぐ
「子どもの居場所」へつなぐ

★地域連携
- 市民交流
- 市民組織、団体間の連携

★事業連携
- 地元企業との連携
- 掛川SDGsプラットフォームの活用

カケショク

６ Ｒ７の取り組み（検討段階）①

１　こども食堂及びカケショク協力団体の交流会

継続的に開催し団体の相互連携及び行政との連携体制構築

２　カケショクを自由に使える仕組み本稼働

Ｒ５・Ｒ６の試行的実施の取り組み評価に基づき構築

３　カケショクを無料自習スペースとして開放

１５：３０～２０：００を想定

１７：１５以降は市の職員常駐、可能な範囲で学習支援

持続可能な仕組みとするため職員の有償ボランティア募集

６ Ｒ７の取り組み（検討段階）②

４　児童館・児童交流館などの充実

小・中・高校生の居心地のよい居場所の確保
学習スペースの確保、Wi-Fi環境整備

既存施設を磨く

学齢期のこどもの居場所の充実

５　子育て支援拠点事業の出張開設

子育て支援拠点の空白地区を補完
子育て支援拠点まで来れない親子へこちらから出向く

６　こどもの居場所をこどもに周知し利用促進

学校連携、市ホームページ、ＬＩＮＥ、かけっこを活用し周知
こども食堂を含む多種多様な居場所の情報をこどもに届ける

自分が居心地のよい居場所をこども自身が選べるように

６ Ｒ７の取り組み（検討段階）③

７　ファミリーサポート事業の利便性・利用率の向上

利用調整システムの導入
手当増額により提供会員を増やし依頼会員の希望に応える

保育施設での一時預かり事業の不足を補完

子育てと仕事の両立支援

８　持続可能なこども食堂の仕組みづくり

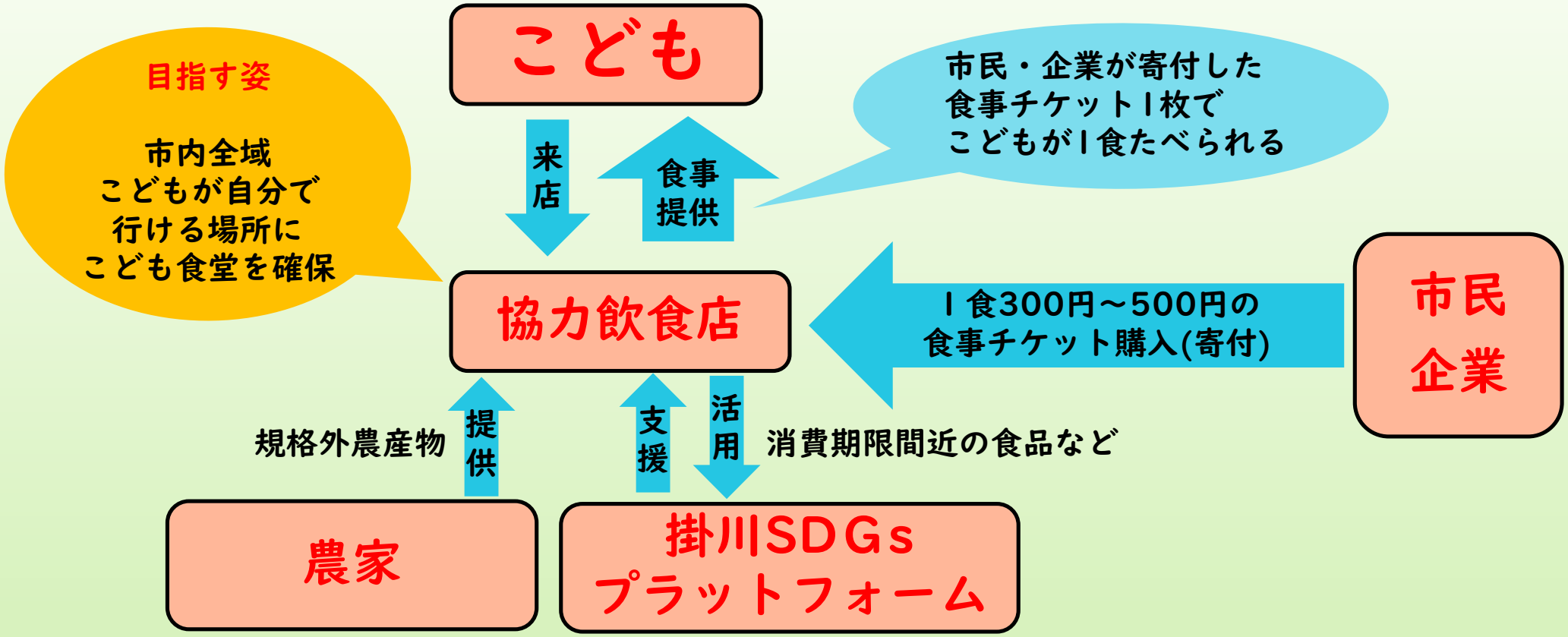
掛川SDGsプラットホームの活用
農家と繋ぐ（規格外農産物の提供）
こども食堂協力飲食店の募集
こども食堂応援市民・企業の募集
こども食堂の仕組みをこどもや市民・企業に周知

貧困家庭を支援

子育て家庭の経済的支援

子育てと仕事の両立支援

飲食店協力によるこども食堂の構想



市

仕組みの周知、情報発信、マッチング、後方支援、意見聴取により仕組みの改善、関係課連携による推進

7　こどもの居場所充実・確保方針

実現方法

①知恵と工夫と協働による推進
②カケショクから地域・企業等での開催に誘導
③既存の居場所を磨く
④持続可能なこども食堂の仕組みをつくる
⑤多様な居場所の確保でこどもの選択肢を増やせるように推進
⑥こどもに居場所の情報を届ける
⑦こどもや子育て当事者、居場所関係者の意見聴取・評価・改善

目指す姿

- 学齢期のこどもの居場所の充実
- こどもに居場所の情報が届く
- 貧困家庭の支援
- 子育て家庭の経済的支援
- 子育てと仕事の両立支援
- こどもが自分で行ける範囲に居場所を確保
- こどもが安心して過ごせる居場所の充実
- こどもの居場所空白地区の解消
- 地域や社会でこどもを見守り、育てる機運の醸成